４ 彩絵羯鼓胴（さいえかつこどう）　１口　［有形文化財（工芸品）］
　 黒漆鼓胴（こくしつこどう）　１口

［所在地］　天理市布留町 384 番地
［所有者］　石上神宮
［法　量］　彩絵羯鼓胴　長 31.0cm
　　黒漆鼓胴　長 36.0cm
［時　代］　鎌倉時代
［概　要］

石上神宮に伝来した２口の雅楽用の鼓胴。羯鼓胴は、ケヤキと見られる広葉樹の一材より作り出し、中央に円孔を刳り抜いた円筒形を呈する。彩色は大半が剥落するものの、革口付近に連珠文、内区に黒色の毛筋が存するのが確認できる。胴中央部をわずかに膨らませた落ち着きのある姿形を保っており、古様をとどめている。

一方の鼓胴は、その大きさから三ノ鼓と判断される。ケヤキと見られる一材を轆轤（ろくろ）挽（び）き成形し、両端に鋺（かなまりがた）型の乳袋（ちぶくろ）、中央部に筒状の棹を作る。大きく張り出した乳袋や、太く彫り出された棹の帯に見られる抑揚のある姿形は、鎌倉時代の作風を示す。鼓胴には彩色を施すものが多いが、鎌倉時代には黒塗りの鼓胴が作られていたことが古楽書等から判明しており、その現存例として貴重である。

鎌倉時代に遡り、左方の楽に用いられる羯鼓、右方の楽に用いられる三ノ鼓が左右ともに残されている遺例は稀少であり、高い価値を有する。

彩絵羯鼓胴

黒漆鼓胴